

# 早慶和書電子化推進コンソーシアム

2021年5月、早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンターは、電子書籍（和書）の大学図書館向けコンテンツの拡充、利便性の向上、新たな購読モデルの構築につなげることを目指し、早慶和書電子化推進コンソーシアム（以下、早慶コンソーシアム）を立ち上げた。パートナーに紀伊國屋書店を迎え、その活動趣旨に賛同した国内出版社5社（岩波書店、講談社、光文社、裳華房、日本評論社）から2022年10月より1年半の期間限定で約1,200点のコンテンツ提供を開始し、2024年3月末に期間終了となる節目を迎えた<sup>1)</sup>。本稿では、早慶コンソーシアムの2023年度の活動を振り返るとともに、2024年度以降の展開について報告する。



早慶コンソーシアムのキービジュアル

## 1 電子書籍利用調査の実施

### (1) 電子書籍に関する利用者アンケート

早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンターでは、提供する電子書籍の利用実態と要望の把握を目的と

し、両大学に所属する学生・教職員を対象に【大学図書館における電子書籍の利用について】のアンケート（以下、利用者アンケート）を6月1日～6月30日に実施した<sup>2)</sup>。オンラインフォームによる回答方式、回答時間を3分程度を想定し全15項目とした。主な調査項目は、大学図書館が提供する電子書籍にかかわる質問を中心に、電子書籍（和書）の利用状況、紙の書籍との使用比較、改善点・要望などである。早稲田大学では回答率を高めるため、WINEへのバナー表示、図書館WebサイトやMyWasedaのお知らせ、中央図書館内でのポスター掲出や閲覧席へのPOP設置などにより、アンケート参加を呼び掛けた。

1か月に及ぶアンケートの回答実績は、早稲田761件、慶應756件、合計1,517件となり、大学図書館における電子書籍の利用実態を分析するに値する回答数を得ることができたと考えている。アンケート回答の傾向は早慶でほぼ同様となり、日常的に電子書籍を利用する割合は教員・研究者が高く、利用目的・形態としては、学習・研究や教養のために自宅や大学でパソコンを使用して読まれていることがわかった。

### (2) 電子書籍に関する利用者インタビュー

利用者アンケートの結果を受けて、さらに深掘りして調査したい内容を出版社5社やプラットフォームの紀伊國屋書店にもヒアリングしながら決定し、利用者に対面のインタビュー調査を実施した。インタビューは、利用者アンケートで「インタビュー協力可」と回答した学生・教職員（早稲田170名、慶應195名）から募り、グループインタビュー方式で早慶それぞれ4名の学生に対し1時間ほどのインタビューを実施した。

早稲田グループからは、電子書籍の手軽さと不便さ、紙と電子は用途や場面によって使い分けるため両方が必要とされること、また要望として、提供してほしい電子書籍の分野や新刊追加モデルの普及、プラットフォームの改善点などの意見が挙がった。なお、インタビュー募集時にも追加調査として4項目のオンラインアンケートを実施した。

## 2 関連イベント

### (1) トークイベント「光文社古典新訳文庫はこうやってつくってます」

広報活動の一環として、早慶OBである光文社古典新訳文庫編集長の中町俊伸氏と同編集部の上宣克氏をお招きし、編集の舞台裏を語るトークイベントを開催した<sup>3)</sup>。イベントは、同じテーマ・登壇者による早慶両会場で実施とし、両大学に所属する学生・教職員であれば早慶どちらの会場でも参加可能としたが、両会場とも当初予定していた定員を増やすほどの参加者が集まり、出版業界



アンケート参加を呼び掛けるポスター



トークイベントのポスター



早稲田会場の様子



イベント会場のAVホールまで光文社古典新訳文庫のPOPを掲示

への関心の高さがうかがい知れた。

当日は、新訳に挑む本の選定方法や翻訳者とのやり取り、出版までの苦労話など、現場にいる編集者ならではの視点で光文社古典新訳文庫の魅力をお話いただいた。また中央図書館4階では、エレベーターからイベント会場となったAVホールまでの壁面に光文社から提供された光文社古典新訳文庫のイラスト付POPを掲示して誘導を行った。POPの前で足を止める参加者の姿も見られ、イベントに参加されたPOPのイラストレーターから喜びの声をいただいた。

盛況のうちに終了したイベントは、参加者の反響もよく、アンケートにはイベントをきっかけに光文社古典新訳文庫をはじめ読書意欲が刺激された、第二弾の開催を期待したいといった声が多数寄せられた。

#### 〈早稲田会場〉

日 時：2023年6月20日(火)17時00分～18時30分  
場 所：早稲田大学 中央図書館4階AVホール  
参加者：51名

#### 〈慶應会場〉

日 時：2023年6月29日(木)18時00分～19時30分  
場 所：慶應義塾大学 日吉図書館1階ラウンジ  
参加者：38名

## (2) 展示

光文社トークイベントの開催にあわせ、中央図書館では光文社古典新訳文庫を中心としたミニ展示「電子書籍で読める！早慶コンソーシアム・セレクション」を開催。また、毎年春と秋に中央図書館・キャンパス図書館で実施されるLibrary Weekにおいて、出版社5社から提供を受けた電子書籍を紹介するミニ展示を所沢図書館、理工学図書館で開催した<sup>4)</sup>。

- ◆[ミニ展示] みんな、電子ブックを活用しよう！：電子ブックでも読める・早慶図書館セレクション／2023春Library Week  
期間：2023年4月12日(水)～4月25日(火)  
※好評につき、5月13日(土)まで期間延長  
場所：所沢図書館オープンエリア内
- ◆[ミニ展示] 電子書籍で読める！早慶コンソーシアム・セレクション  
期間：2023年6月1日(木)～6月30日(金)  
場所：中央図書館2階(新着図書架)
- ◆[ミニ展示] 電子書籍で読める！早慶コンソーシアムコレクション in 理工／2023秋Library Week  
期間：2023年9月21日(木)～10月20日(金)  
場所：理工学図書館(51号館B1階)コミュニケーションラウンジ／グループワークルーム2



中央図書館の展示風景



所沢図書館の展示風景



理工学図書館の展示風景

## 3 2024年度に向けての動き

### (1) 出版社5社について

コンテンツ提供を開始し、約半年が経過した2023年5月には、各出版社に対し2022年度（10月～3月）の振り

返りとして中間報告を行った。2022年10月20日に配信した早慶合同プレスリリースの反響やSNSの反応、展示などの広報活動に加え、提供されたコンテンツの利用が堅調に推移している結果を示し、早慶の利用実態を報告した。

8月に入ると、参加出版社に対し利用者アンケートの分析結果、インタビュー調査による利用者の要望をフィードバックし、2024年度以降の展開について懇談を開始した。各社との調整は年度末まで続いたが、岩波書店のみ2024年度も早慶コンソーシアムでの実験を継続し、ほか4社については当初の予定通り2024年3月をもって終了することとなった。活動の成果としては、実験を行ったモデルやコンテンツの一部が一般向けに提供されることになり、大学図書館で購入できる電子書籍（和書）の拡大や利用条件の改善、新たな購読モデルの構築へとつながった。また、実験を終了した出版社も早慶コンソーシアムでの活動を経てさらなる検証を続けていくと表明しており、今後の可能性に期待したい。

### (2) 2024年度早慶コンソーシアムの延長と活動予定

出版社5社との調整に並行して、パートナーの紀伊國屋書店とともに実験に新規参入する出版社との交渉・対話も進めた。複数の出版社から賛同を得ることができたため、2024年3月終了を予定していた早慶コンソーシアムの1年延長を決定した。

2024年度は、継続参加の岩波書店に加え、新たにアルク、中央公論新社、PHP研究所の計4社から、総計1,200点以上のコンテンツが提供される。また、6月には出版社向けの成果報告会も予定している。引き続き、電子書籍の利用を喚起するとともに、早慶コンソーシアムの実験や成果が国内出版社を動かすきっかけとなり、大学図書館向けの和書電子化の推進・拡大につながる活動を行っていきたい。

注) 本稿内の情報、Webサイト閲覧はいずれも2024年4月1日現在である。

- 1) 早慶和書電子化推進コンソーシアム：プロジェクト概要  
<https://waseda-jp.libguides.com/sokei-ebook/top>
- 2) 早慶和書電子化推進コンソーシアム：アンケート  
<https://waseda-jp.libguides.com/sokei-ebook/survey>
- 3) 早慶和書電子化推進コンソーシアム：イベント  
<https://waseda-jp.libguides.com/sokei-ebook/events>
- 4) 早慶和書電子化推進コンソーシアム：展示  
<https://waseda-jp.libguides.com/sokei-ebook/exhibits>